

# 井伏鱒二著作年表

(大正一二年) 昭和五五年)

まえがき

本誌は第一〇号(昭和四七年)で、昭和二年から同四〇年までの井伏鱒二著作年表を作成した。今回は、それを発展させ、大正一二年から昭和五五年までを扱った。

- 1 調査にあたっては、雑誌、新聞の類では『文芸年鑑』、『現代日本文芸総覧』、『雑誌記事索引』を、単行本、全集の類では『全日本出版総目録』、『出版年鑑』を基本文献とし、ほかに『井伏鱒二文学書誌』、『私注・井伏鱒二』、筑摩書房版『井伏鱒二全集』の後記、諸種の年譜、また、和田利夫、佐藤嗣男、青山毅、寺横武夫氏らの調査報告等で補った。また、雑誌、単行本とも、できるかぎり原誌に当るよう努めた。
- 2 体裁は、発表年月順とし、同月のものは概ね、小説、随筆、書評、詩、座談会、単行本、全集、文庫本の順に配列した。詩、インタビュ、アンケート、談話については( )内にその旨を明示しておいた。
- 3 形式は、作品名(発表機関)または『書名』(出版社)とし、叢書名は入Vで示した。
- 4 発表、発行が長期にわたるものは、最初の年月に一括した。
- 5 再録、再版と思われるものは原則として省略した。
- 6 発表月未詳のものは、その年の末尾に記した。
- 7 初出不明で、筑摩書房版の全集に収録されているものについては、執筆年月を記しておいたものもある。

作成にあたっては正確、詳細を心がけたつもりであるが、調査の不備のため誤まり、遺漏も多いかと思う。今後も補正に努めたい。

本稿は、綾目広治、遠藤伸治、藤村猛、丸川浩の共同作成による。

大正一二年(一九二三) 二五歳

七月 幽閉(世紀)

大正一三年(一九一四) 二六歳

九月 『父の罪』(Kantzenes) ズーデルマン・井伏鱒二訳 聚芳閣)

大正一四年(一九一五) 二七歳

一月 うちははせ(文学界) 六月 つくだにの小魚(鉄槌)

大正一五年・昭和元年(一九一六) 二八歳

一月 寒山拾得(陣痛時代) 四月 言葉(桂月) 七月 言葉(その二)

(桂月) 九月 鯉(桂月) のち改稿して三田文学に掲載) 一月 貧困其他(桂月) 一月 夜更けの心(桂月) 月未詳 岬の風景(陣痛時代)

昭和二年(一九二七) 二九歳

二月 歪なる図案(不同調) 三月 競馬(桂月) 五月 文章其他(桂月)

六月 能勢と早川(桂月) 七月 田園・電車等(桂月) 九月 埋憂記(文芸公論) 桃の実(桂月) 一〇月 岡穂の実を送る(桂月)

昭和三年(一九二八) 三〇歳

三月 夜更と梅の花(文芸都市) 四月 子供たち!(新文化 ソヴェエト教育ポスターの翻訳) 五月 たま虫を見る(三田文学) 青木南八

(文芸都市) 十一月に続載) 七月 遅い訪問(三田文学) 八月 談判(文芸都市) 七月一日拝見(文芸都市) 一〇月 鱒二への手紙(文芸都市) 粗吟断章(三田文学 詩) 一二月 紙瓶のうた(三田文学 詩)

昭和四年(一九二九) 三一歳

一月 谷間(文芸都市) 四月 同人印象(一)蔵原伸二郎(或ひは失言(文芸都市) 甲州街道ある記(文芸都市) 女・女(文芸都市) 田辺茂一・

蔵原伸二郎との合作) 編集後記(文芸都市) 二月 エロティシズムーマンハッタンカクテルを見る(文芸都市) 三月 朽助のゐる谷間(創作月刊)

四月 雑誌の表紙(文芸レビュー) 散文芸術と誤れる近代性(福岡日日新聞)

二日(四日) 五月 初恋(文芸都市) 場面の効果(創作月刊) 山椒魚(童話)(文芸都市) 形式主義文学理論を如何に観るか(文芸レビュー アンケート) 六月 最近の佐藤春夫(福岡日日新聞 二四日(二六日) 理論) ジャン・エプスタンの文学論を讀みて自ら顧みる(文芸都市) 休憩時間の棚(文芸都市) COSSIP—佐藤春夫氏に就いて—(明治大正文学全集月報第25号) 春陽堂 七月 先輩訪問記—谷崎精二氏—(文芸都市 『オロシヤ船』では副題なし) 青木南八の病床の歌(文芸レビュー) 六月号創作評(文芸都市) 八月 なつかしき現実(文芸都市) 炭鉱地帯病院(文芸都市) 履ゴシッ—葛西善蔵氏に就いて—(明治大正文学全集月報第27号) 春陽堂 10月 Miss&Mr. 1930のナンセンスな散歩(婦人サロン中村正常と合作) 私の保証人(三田文学) 作品手引草—宇野浩二氏作品—(明治大正文学全集月報第30号) 春陽堂 十一月 屋根の上のサワン(文学 『夜ふけと梅の花』では「こゝで私といふのは或る少女のこと」という副題あり) シグレ島叙景(文芸春秋) 川口尚輝に関する記事ならびに誤りの訂正(新文芸都市) ユマ吉ペソコの秋のピクニック(婦人サロン 中村正常と合作) 十二月 初冬—挿話—細カナリヤ(文芸レビュー) すべてを芸術に求める人—有島生馬氏に就いて—(明治大正文学全集月報第31号) 春陽堂

昭和五年(一九三〇) 三三歳

一月 ジョセフと女子大生(新潮) 生きたいといふ(近代生活) 文壇新人録—感想風な略歴—(文学時代) 手帖—井伏鱒二—(文学) まかせ・こひかせ—モダン型の二人の作中人物—(明治大正文学全集月報第32号) 春陽堂 二月 休憩時間(新青年) 終電車(文学) 丸山警視總監と久米正雄氏を訪ねる(文芸春秋) 三月 逃げて行く記録(文学) のちの「さざなみ軍記」の冒頭部 印度の訳詩(詩神) 吉田絃二郎氏の人間性(新潮) 不如帰と民衆—(明治大正文学全集月報第34号) 春陽堂 四月 或る恋愛の素描(文学時代) 安達内相と里見淳氏を訪ねる(文芸春秋) 自己を語る—略歴風に言ふ—(文学時代) 朗らかなこゝろ—久米正雄氏について—(明治大正文学全集月報第36号) 春陽堂 五月 十二年間(新潮) のち「十二年」を改題 六月 逃亡記(作品) のちの「さざなみ軍記」の一部 僕の八万六千四百秘録—三日間—(文学時代) 最近の日記—四月二十七日—五月一日—(近代生活) 翻刻本の面白さ—佳人之奇遇について—(明治大正文学全集月報第37号) 春陽堂 七月 逃亡記・その二(作品) のちの「さざなみ軍記」の一部 「ボ

ア吉の求婚」の著者中村正常の風貌(作品) 隠岐の島案内記(文芸レビュー) 馬車に降りそぐ雨(新潮) 淑女のハンドバッグ(婦人公論) 『なつかしき現実』(八新鋭文学叢書) 改造社 八月 風雨強かるべし(近代生活) 風貌・姿勢(一)—堀辰雄・中村正常・小林秀雄—(作品) 九月 悪い仲間(文学時代) ミリアさん(新潮) 最近文学の享樂的傾向に就いて—座談会—井伏鱒二・深田久彌・河上徹太郎・小林秀雄・今日出海・永井龍男・中村正常・小野松二—(作品) 一〇月 SOS(近代生活) 風貌・姿勢—今日出海・永井龍男—(作品) 無花果の木のある場面(文学時代) 正宗白鳥氏に就いて—挿話—(明治大正文学全集月報第41号) 春陽堂 十一月 風貌・姿勢—小野松二・蔵原伸二郎—(作品) 私の追憶の焦点—サ・ナミ山人—(明治大正文学全集月報第42号) 春陽堂 十二月 家庭裝飾(新潮) 何が最も私を驚ろかしたか? 驚異と恐怖との交錯の瞬間—危険ABC—(文学時代) 一九三〇年の印象・ABC(近代生活) 昭和五年に發表せる創作評論に就いて—決算報告—(新潮) 昭和五年度の傑作は何か—座談会—井伏鱒二・河上徹太郎・今日出海・神西清・中村正常・永井龍男・深田久彌—(作品)

昭和六年(一九三一) 三三歳

一月 岡の上のスケッチ(作品) 或る日、生垣のスケッチ(文学時代) 一九三一年の金言(近代生活) 予想さるる日本文壇一九三一年(文芸レビュー アンケート) 二月 丹下氏邸(改造) 背の高い椅子の誘惑(文学時代) 晩春(文芸春秋増刊号) 同人通信(作品) 夜ふけの客人(報知新聞夕刊) 挿話な挿話—谷崎精二氏について—(明治大正文学全集月報第45号) 春陽堂 三月 田園記(作品) 予白用の隨筆(新科学的文芸) 二月の作品—一人一作評(作品) 四月 余白用の隨筆(新文学研究) 五月 仕事部屋(都新聞 70回連載) 隣りのワンピース(文学時代) アパート(文学時代) 私事挿話(新科学的文芸) 困難なこと(近代生活) 生活・芸術・人間—中村氏と加藤氏について—(明治大正文学全集月報第48号) 春陽堂 六月 戸田家畜病院(新潮) 吾若し処女なりせば—そして美貌だつたら—(文学時代) 七月 森鷗外氏に詫びる件(東京朝日新聞) この夏の計画(近代生活 アンケート) 八月 逃亡記(三) (作品) のちの「さざなみ軍記」の一部 讀了直後のとき(作品) 小遺帖しらべ(近代生活 アンケート) 『仕事部屋』(春陽堂) 九月 川沿ひの実写風景(文芸春秋) のちの「川

の(一部) おちんだ伝法金水(オール読物) 頼ノ津所見(古東多万) 時代女性の横顔訪問記(平井美奈子夫人)(新潮) 一〇月 三人の俳優(文芸春秋) 逃亡記(四) (作品) のちの「さざなみ軍記」の一部) 病氣(文科) 作品の会合(座談会) 井伏鱒二・中村正常・吉村鉄太郎・今日出海・小林秀雄・木村庄三郎・河上徹太郎(作品) 一月 A5号室患者日記(福頼院を調べた小説)(文学時代) 二月 川(その川沿ひの実写風景)(中央公論) のちの「川」の一部) 都会の心臓を探る(放送局の面貌)(新潮) 泥酔記(改造)

昭和七年(一九三二) 三四歳

一月 洪水前後(新潮) のちの「川」の一部) 使徒アンデレの手紙(小説) 逃亡記(小説) 「詩と詩論」別冊) 作家の自叙伝(子供のときのこと)(近代生活) 二月 黒い胸像(文学クオタリイ) 湘南風景(新潮) 一月の作品(一人一作評(作品) 代表作は如何にして生まれたか(旧作のこと)(近代生活) 三月 春の秘密を探る(残りすくない青春(文学時代) 四月 一人一評(作品) 五月 その地帯におけるロケイション(新潮) のちの「川」の一部) 青環玕(文芸春秋) 梶井君の逝去(作品) 六月 微弱なる心痛(文学時代) 日記の一週間(五日間)(近代生活) 七月 黄瀛(作品) 文芸春秋五月号の随筆における黄瀛氏に関する訂正) 広津和郎(新潮) 八月 日本漂流(小説のノート)(作品) 九月 明治・大正の大作家再検討(森鷗外論)(新潮) 南窓集の出版(作品) 居酒屋風景(改造) 一〇月 ハーシン先生(文芸春秋) 五作家打診記(佐藤春夫氏との一問一答)(新潮) 純文学の危機について語る(座談会)(新潮) 『川』(江川書房) 十一月 大東京物語(高円寺スケッチ・高円寺風景)(新潮) 素人野球試合の記(一月執筆)

昭和八年(一九三三年) 三五歳

一月 言葉について(新潮) 風貌・姿勢(五) 一三好達治・河上徹太郎・深田久彌(作品) 二月 女人来訪(文芸春秋) 掏摸の棧三郎(文芸春秋別冊オール読物号) 三月 男ごころ・女ごころ(せめてもハennesの最後の義務・寂しき人々)(新潮) 四月 実費診療院(新潮) 五月 仔犬のこと(四季) 望遠鏡(新潮) 『随筆』(椎の木社) 六月 釣鐘の音に関する研究

(あらくれ) 七月 ユキコ(文芸春秋) 架空動物譜(文芸春秋) 夏の狐(七月執筆) 言葉の下のベンチで・茶話(マリについて)(新潮) PE Nクラブ埋草用原稿(作品) 九月 狂人(一つの噺話)(新潮) 山小屋の番人(九月執筆) 新刊批評『にんじん』(作品) 一〇月 夏日舟遊(行動) 田園記(文学界) 画家と文士の一問一答録(山口蓮春氏と語る)(新潮) 創作批評に対する感想(回答)(新潮 アンケート) 昨日の日記(文芸通信) 十一月 或る部落の話(中央公論) 十二月 いかさま病院(文芸) 私が占ひに観て貰った時(文芸通信 アンケート)

昭和九年(一九三四) 三六歳

一月 出世作を出すまで(完結しない月なみな生活)(文芸通信) 嘉村磯多氏追悼(嘉村さんの事)(作品) 困旗(サンデー毎日 一四日) 二月 喪章のついてゐる心懐(行動) 増富温泉場(サンデー毎日 一八日) 作者の感想(大声小聲)(文芸通信) 三月 昔ヶ島大概記(中央公論) 講習実記(文芸) 雑用一件(文芸春秋) 『悲劇の哲学』誌上出版記念会(祝発刊)(作品) 四月 洋之助の気焔(文芸春秋 太宰治による代作) 私の愛読した本(文学的読書)(新潮) アラヤ殿下のこと(文芸) 富士川支流(四月執筆) 『逃亡記』(改造社) 五月 最近文壇二十作家・人物及び作品の印象(文芸通信) 『田園記』(作品社) 六月 文芸時評(五月号『文芸』の批評)(文芸) 深田久彌君の印象(文学界) 下田港の黒船祭(改造) 八月 土(三田文学) 女性作家の印象(松田解子・伏字について)(文学界) 九月 りりる座(中央公論) 饒舌(文芸) 梅雨空(行動) 文芸時評(葛西善藏忌に際して)(作品) 作家の感想(早慶戦)(文芸通信) 最近注目した長篇・短篇に就て(文芸通信 アンケート) 一〇月 井伏鱒二より佐々木茂索宛(文芸通信) 十一月 月評に就ての感想(文芸通信 アンケート) 十二月 頓生菩提(改造) のち改題「冷凍人間」) 師走夜さむ(我が歳末の記)(文芸通信) 本年度に於ての文学・絵画・演劇・映画その他(最も印象深かつたもの)(新潮 アンケート)

昭和一〇年(一九三五) 三七歳

一月 日常勉学のこと(行動) ラジオしぐれ(新潮) 奥利根の藤原村(文芸) 甲州の話(一月執筆) 『頓生菩提』(竹村書店) 二月 私の文学的

生活(新潮) 懸賞小説の思ひ出、埋もれて了った作家(文芸通信 アンケート) 三月 酒の害(文芸) 中島健蔵に(作品) 四月 有間皇子(文学界 五月に統載) 五月 集金旅行第一日(文芸春秋「集金旅行」の一部) 坪内逍遙先生(早稲田文学) 校歌(文芸通信) 六月 葉煙草(早稲田文学) 長平の墓(六月執筆) 七月 続集金旅行(文芸春秋「集金旅行」の一部) 初めて逢った文士を語る(文芸通信 アンケート) 八月 家出人(中央公論) 尾道(文芸「集金旅行」の一部) 無人島長平の墓(作品) 散歩どきの話題(文芸通信) 一〇月 金山踊(東京日日新聞 六日) 風景(作品) 十一月 志賀直哉と尾道(十一月執筆) 十二月 オロシヤ船(新潮) 母(文芸) 田舎の話(文芸通信) 肩車(二月執筆)

昭和十一年(一九三六) 三八歳

一月 私事―鎌田幸一のこと・亡父の法事のことなど(作品) 二月 白い処女地・その他(文芸懇話会) 歳末閑居(四季 詩) 三月 寄黄緘(文芸 特集・新聞小説覚書―続きもの―(作品) 旅さきの食べもの(月刊文章) 冬の池畔―甲州大正池―(四季 詩) 四月 梅香崎飯館(中央公論) 神田先生の記(新潮) 同人雑誌華やかな頃―当面の問題―(文芸通信) 『肩車』(野田書房) 五月 雞肋集(早稲田文学) 一二月 牧野信一追悼―牧野信一氏―(作品) 趣味・無趣味(文芸春秋) 六月 競馬(文芸通信) 静夜思(国民新聞) 樹木(東京朝日新聞) 七月 襖絵(文芸春秋) 彼得大帝と日本語学校(改造) 八月 夏日お山講(サンデー毎日) 投書(四季) この頃読んだもの・見たもの・聴いたもの―回答ABC―(新潮) 『静夜思』(三笠書房) 九月 福山から加茂村まで(新潮「集金旅行」の一部) 政治について―市民の言葉(文学界) 言葉(文芸) 一〇月 なのだれ(四季 誌) 一二月 一軒家(文芸) 赤毛布縮尻時代―上京直後―(文芸通信) 『雞肋集』(竹村書房) 一二月 歳末非常警戒(文芸) 病院の運動会(文芸懇話会) 海路の日和「野の花」(文学生活) 印象に残った作品・評論―昭和十一年度に於いて―(新潮) 一、本年度評論賞を与へるとすれば誰に?―人とその作品―、その理由(文芸 葉書回答)

昭和十二(一九三七) 三九歳

二月 按摩をとる(四季 詩) 四月 日本漂流譚(改造) 取立屋(新潮)

埋草用文章(文学生活) 二月九日所感(早稲田文学) 『集金旅行』(版画荘) 五月 『厄除け詩集』(ハコルボオ叢書▽野田書房) 六月 西海日記(文芸「さざなみ軍記」の一部) 泥酔(四季 詩) 八月 鳥(短歌研究) 一日二題(新潮) 九月 素精吟味(オール読物) 『山川草木』(雄風館書房) 一〇月 三宅島所見(文学界) コサック従軍記(文芸) 緑蔭の一景(四季 詩) 十一月 辻野久憲氏のこと(四季) 『ジョン万次郎漂流記 風東漂流民奇譚』(人記録文学叢書8▽河出書房) 一二月 一九三七年の感想―青柳瑞穂君の出征―(新潮)

昭和十三年(一九三八) 四〇歳

一月 ミツギモノ(新潮) 早春日記(文学界「さざなみ軍記」の一部) 四月 『火木土』(八版画荘文庫▽版画荘) 二月 琵琶塚(新女苑) 車中所見(四季 詩) 三月 郷里風土記―広島―(文芸) 四月 末法時論(中央公論) ねられんしや騒動(オール読物) 『さざなみ軍記』(河出書房) 五月 わが界隈―杉並区清水町―(新潮) 六月 湯島風俗(サンデー毎日) 八東・斐の川(婦人公論) 七月 岩田君のクロ(ユーモアクラブ) 私人マルロオ南部審取調聞書(新潮) 八月 出前もち(かむろ) フジントの滝(東京日日新聞) 九月 中島の柿の木(話) 松山におけるイワン(文芸春秋) 日記四日間(新潮) 山に行く(文学界) 一〇月 続さざなみ軍記(文学界) 上山通信(文芸) 『陋巷の唄』(八新小説選集11▽春陽堂) 一二月 九月十三日(文体) 一二月 夜沈々評(文学界) 私事二件(文体)

昭和十四年(一九三九) 四一歳

一月 山を見て老人の語る(文芸) 一風俗(オール読物) 二月 多甚古村(一)(文体「多甚古村」の一部) 多甚古村駐在記(改造「多甚古村」の一部) 三月 多甚古村(二)(文体「多甚古村」の一部) 『禁札』(竹村書房) 四月 多甚古村の人々(文学界「多甚古村」の一部) 往復書簡―井伏鱒二・河上徹太郎―(婦人公論) 五月 入国記(博浪沙) 七月 多甚古村駐在記(文学界「多甚古村」の一部) 大空の鷺(文芸春秋) 蛭合戦(朝日新聞) 『駐在日誌多甚古村』(河出書房) 九月 新しいそつぷ―鳥獣戯画―(文芸春秋) 『蛭合戦』(八新選隨筆感想叢書▽金星堂) 一〇月 高千穂(

新潮) 日向高千穂(文学界) 『川と谷間』(八創元選書▽創元社) 『オロシヤ船』(八新選名作叢書▽金星堂) 一月 お濤に関する話(オール読物) 一二月 一路平安(満州日日新聞) 一五年五月) 昭和十四年の文芸界(新潮 葉書回答) 月末詳 旅中友人の災難(夏頃執筆)

昭和十五年(一九四〇年) 四二歳

一月 ウキズルさん(改造) 人命救助の件(モダン日本 「多甚古村補遺」の一部) オコマさん(少女の友) 六月 川井騒動(サンデー毎日) 十二月一日(文学界) 歯痛の日(文芸) 紙風のうち(四季 詩) 二月 『丹下氏邸』(八昭和名作選集▽新潮社) 三月 鸚鵡一筆として(知性のち副題をけずる) 寄付金持逃げの件(公論 「多甚古村補遺」の一部) 朝鮮の久遠寺(新潮) 日本自然風景論一座谈會 井伏鱒二・岡本一平・今日出海・深田久彌(文学界) 四月 星座(中外新聞) 七月) へんろう宿(オール読物) 掛け持ち(文芸春秋) のち改題「掛持ち」) 五月 『鸚鵡』(河出書房) 六月 円心の行状(オール読物) 『風俗』(モダン日本社) 九月 釣魚記(文芸春秋) 『一路平安』(今日の問題社) 一〇月 童話「ドリトル先生」物語(文学界) 一二月 俗化(現代文学) 胃病患者の心(新潮)

昭和十六年(一九四一) 四三歳

一月 増富の谿谷(オール読物) 小間物屋(中央公論) 郷土大概記(文学界) 『ドリトル先生「アフリカ行き」』(ロフティング・井伏鱒二訳 白林少年館出版部) 『さざなみ軍記 付ジョン万次郎漂流記』(河出書房) 二月 黒い表紙の日記帳(改造) 三月 雑信一束(四季) 『シグレ島叙景』(実業之日本社) 『井伏鱒二隨筆全集1・夏の狐』(春陽堂) 『英訳ジョン万次郎漂流記』(金子尚一訳 北星堂) 四月 五三郎君に関する記(文学界) 五月 風貌姿勢(四季) 六月 五月五日の日記(文学界) 『おこまさん』(輝文館) 八月 釣と政治と狐一井伏鱒二・林房雄書簡往復(文学界) 対談会の記(文学界) 九月 隠岐別府村の守吉(オール読物) 一〇月 西金の渡船番(改造) 『井伏鱒二隨筆全集2・山の宿』(春陽堂)

昭和十七年(一九四二) 四四歳

二月 『井伏鱒二隨筆全集3・風貌姿勢』(春陽堂) 『一路平安』(八有光

名作集▽有光社) 四月 アバカとの話(モダン日本) 八月 花の街(東京日日新聞 大坂毎日新聞) のち改題「花の町」) 十月) 九月 昭南日記(文学界) 『井伏鱒二集』(八新日本文学全集10▽改造社) 『詩集・仲秋名月』(地平社) 一二月 『星空』(昭南書房)

昭和十八年(一九四三) 四五歳

一月 ゲマスからクルーアンへ(文芸春秋) 十七年七月下旬ころ(文学界) 昭南タイムス発刊の頃(サンデー毎日) 二月 旅館・兵舎(時局情報) 三月 或る少女の戦争日記(新女苑) のち改題「或る少女の戦時日記」 四月に続載) 待遊所(文学界 シンガポールに住むある混血少女の日記を訳出したもの) 六月に続載) 『マライの土』(八作家部隊隨筆集▽新紀元社) 『昭南日記』収録) 五月 紺色の反物(改造) 六月 御神火(こども朝日) 八月) 九月 『十年』(二見書房 「猿」収録) 一〇月 吹越の城(文芸読物) 一二月 布山六風(文学界) 推薦したい新人の作品(文学報國) 南航大概記(二月執筆) 本年度の新人について・従軍記・報道文について・本年最も感銘を受けた文学作品(文芸 葉書回答) 『花の町』(文芸春秋社) 月未詳 鐘供養の日(陣中読物) 一二月頃か)

昭和十九年(一九四四) 四六歳

三月 『御神火』(甲鳥書林) 六月 村長(文芸春秋) 昭南所見(四季 詩) のち改題「シンガポール所見」) 七月 防火用水(文芸春秋) のちに「防火水槽」として『日本小説代表作全集13』に収録)

昭和二十年(一九四五) 四七歳

一〇月 『丹下氏邸』(新潮社)

昭和二十二年(一九四六) 四八歳

二月 契約書(文芸春秋別冊) 五月に続載) 三月 『雨の歌』(飛鳥書店) 四月 経筒(新生) 二つの話(展望) 『ドリトル先生「アフリカ行き」』(ロフティング・井伏鱒二訳 光文社) 五月 波高島(改造) 「佗助」の前半) 『仲秋名月』(地平社) 六月 佗助(人間) 「佗助」の後半) 七月 『オロシヤ船』(新星社) 『雞肋集』(鷲ノ宮書房) 九月 追刺の話(素直) 一〇月 『昭和19年20年度』(八日本小説代表作全集13▽小山書店) 「防火水槽」収録) 『まげもの』(八現代文学選20▽鎌倉文庫) 一二月 橋



月二日記―太宰君の手紙に就て(文芸) 七月六日記(文学界) 九月 見合ひ(世界) 『掘り出しもの』(創元社) 『井伏鱒二・中山義秀・平林たい子・阿部知二』(八現代日本小説大系別冊2) 河出書房 『くもの怪業師』(八日本童話名作選集別巻3) 三十書房 一〇月 母校(別冊文芸春秋) 放談八題(群像) 『井伏鱒二・尾崎一雄・林芙美子・上林曉・伊藤整・坪田譲治』(八現代日本小説大系52) 河出書房 一二月 兎小屋の客人(中央公論文芸特集) 九月三日記(文芸春秋) 牧野信一のこと(文学界) 一二月 柿の芽(ニューエイジ) 放火事件(別冊文芸春秋) 男やもめ(オール読物) 『ジョン万次郎漂流記』(八新児童文庫) 三十書房 月未詳 陸奥百景(スタイル読物版)

昭和二六年(一九五二) 五三歳

一月 吉凶うらなひ(新潮) 二月と一〇月に続載)系図(サンデー毎日) 二月 畑徳利(芸術新潮) 引光寺(日本及日本人) 三月 霜焼けと「鳥エイサ」(オール読物) パイプについて(改造) 四月 引札(文学界) 折々草紙―二月十七日記(群像) 気になる話(小説新潮) お島の語る秋帆先生(小説公園) 加山君のこと(中央公論) 『通洋隊長』(改造社) 五月 夜番(別冊文芸春秋) アスナロの木(婦人画報) つらら(旅) 六月 風貌姿勢(小説新潮) カキツバタ(中央公論文芸特集) 植庄から貰った犬の仔(展望) のち改題「犬の仔」 『ドリトル先生アフリカゆき』(ロフティン) グ・井伏鱒二訳 岩波少年文庫 七月 いびつな群像(新潮) 断金隊(文学界) 岡部の陣屋(オール読物) あの頃の演劇青年(演劇) 八月 犠牲(世界) 烟霞苦淡(小説新潮) 比波良の漁師(別冊文芸春秋) 九月 貧乏性(文芸) 木砲隊始末記(サンデー毎日新秋号) 眼鏡(日曜日) 『本日休診』改訂版(文芸春秋新社) 一〇月 『集金旅行・さざなみ軍記』(創元文庫) 一二月 味淡(文芸春秋) 『厄除け特集』(木馬社) 一二月 ワサビ盗人(オール読物) 用語の矯正(言語生活) 『かきつばた』(八昭和) 新名作選) 池田書店 月未詳 画学生旅に出る(週刊朝日春季増刊号)

昭和二七年(一九五二) 五四歳

一月 丸木橋(新潮) 樟脳の粉(早稲田文学) 交易不易(別冊文芸春秋) うぐひす(読売新聞) 『吉凶うらなひ』(文芸春秋新社) 『ドリトル先生』のサーカス(ロフティン) 井伏鱒二訳 岩波少年文庫 『厄除け詩集』

限定版(木馬社) 二月 二つの像(心) 京見物(オール読物) 河川情況(二月執筆) 『ドリトル先生航海記』(八世界名作全集24) ロフティン・井伏鱒二訳 講談社 三月 鼠小僧(文芸春秋) 支離滅裂―わが青春3―(小説新潮) 湯河原沖(財政) 四月 人影(文学界) 口髭(文芸) 乗合自動車(別冊文芸春秋) 五月 再会(改造) 鐘つき男(小説新潮) 薬師堂前(オール読物) 『井伏鱒二・他集』(八現代日本小説大系45) 河出書房 六月 サイカチの木(サンデー毎日) 『川釣り』(岩波新書) 『ドリトル先生の郵便局』(ロフティン) 井伏鱒二訳 岩波少年文庫 七月 晩春の旅(新潮) 長崎の醤油瓶(文学界) 追懐の記(文芸春秋) 文学者の見た十年間―座談会 井伏鱒二・奥野信太郎・亀井勝一郎・河盛好藏・坂口安吾・火野葦平―(新潮) 八月 猫また小路(週刊サンケイ) 五日―一二月二八日) 肉体について(世界) 外国文学―わがベスト5―(別冊文芸春秋) 教科書と私の文章―国語読本のこと―(文学) 九月 井伏鱒二作家に聴く) 第九回(文学 インタビュー) 『乗合自動車』(筑摩書房) 一〇月 「奥の細道」の一週間(別冊文芸春秋) 十月十六日記(一〇月執筆) 十一月 京都(一一月執筆) 『本日休診・集金旅行』(八現代日本名作選) 筑摩書房 月未詳 三味線唄(二七年執筆) 九月二十日記(二七年執筆) 九月十四日記(二七年秋頃執筆)

昭和二八年(一九五三) 五五歳

一月 炬燵明け(新潮) サイカチの木(新女苑) 骨董(群像) 二月 服部のお城山(別冊文芸春秋) 『さざなみ軍記』の史料―平家と自分に関すること―(文学) 三月 クラス会(オール読物) 『井伏鱒二作品集』全六巻(創元社) 一九月 ただし五巻まで中断) 四月 小鮎(中央公論) 野辺地の睦五郎略伝(文芸春秋) 『晩春の旅』(八年刊日本文学) 昭和二七年度) 筑摩書房 五月 ある高校生(改造) 六月 灰皿(芸術新潮) 旗かぜ(オール読物) 『ドリトル先生のキャラバン』(ロフティン) 井伏鱒二訳 岩波少年文庫 七月 かるさん屋敷(毎日新聞) 四日―一二月一六日) 平家物語―さざなみ軍記―(文芸) 作中人物の用語(新潮) 『純粋の声・風貌姿勢』(八現代日本随筆選1) 井伏鱒二・川端康成共著 筑摩書房 八月 堀辰雄(文学界) 堀君と将棋の香車(文芸) 源太が手紙(八月執筆) 九月 太宰君のこと―彼はサブタイトルの好きな作家であった―(文学界)

年中行事煙滅の一例―柳田国男著『不幸なる芸術』書評―(文学) 隨筆集『点滴』(要書房) 『井伏鱒二・中山義秀篇』(人長篇小説全集15)新潮社  
一〇月 辞書の不便(図書) 十一月 十一月十二日記(二〇月執筆) 十二月 前がき(文芸) 太宰治「洋之助の気焔」に付した(御坂の碑(文学界) 安土セミナリオ―その一(別冊文芸春秋) 『井伏鱒二集』(人現代日本文学全集41)筑摩書房) 『本日休診・通洋隊長』(角川文庫) 月未詳 早春日記(週刊朝日春季増刊)

昭和二九年(一九五四) 五六歳

一月 お嬢さん(新潮) 『井伏鱒二集』縮刷版(新潮社) 二月 宗漣と治郎作(別冊文芸春秋「安土セミナリオ」の一部) 魚金さん(新潮) 四月 源民宇三郎(群像) 三〇年二月 弥助の奮戦(別冊文芸春秋 「安土セミナリオ」の一部) 石州わかめ(中央公論) 『若き日の旅』(河出新書 編著旅(序に代えて)収録) 五月 痴人文学界 のち改題白鳥の歌(黒い壺(文芸春秋) 女中さん(新潮) 三月上旬(オール読物) 昭和文学小説百選―座談会井伏鱒二・伊藤整・高見順・永井龍男・丹羽文雄・河盛好蔵―(新潮) 『井伏鱒二・太宰治集』(人昭和文学全集36)角川書店) 『井伏鱒二・河上徹太郎・中島健蔵集』(人現代随想全集22)創元社) 六月 神谷川の旦那(新潮) 散歩の友(改造) 井伏鱒二より太宰治への手紙(文芸) 七月 落武者―安土セミナリオその三―(別冊文芸春秋) タムリン(文芸) テクリン一家(新潮) 八月 難民その他―安土セミナリオ―(別冊文芸春秋) 「安土セミナリオ」の一部 雨の歌―新歳時記・I―(文学界) 九月 近目と竹法螺(小説新潮 のち改題「法螺の音」さらに「貝の音」) 『集金旅行・さざなみ軍記』(角川文庫) 一〇月 小島村の話(心) 庭前(婦人公論) 甲府(週刊朝日) 艶書(新潮) 「熊」について(文芸) のち改題「チェーホフの『熊』について」 下部の湯(旅) 十一月 塩の山・差出の磯(婦人画報) 一二月 病中所見(世界) ななかまど―或る贗物の話―(文学界) 在所言葉(暮しの手帖) 時計・会・材料その他―直木賞受賞の頃のこと―(別冊文芸春秋) 『黒い壺』(人昭和名作選6)新潮社

昭和三〇年(一九五五) 五七歳

一月 早稲田界隈(新潮) 二月 一別以来(知性) 河童の騒ぎ(週刊朝日

別冊 のち改題「河童騒動」) 『ななかまど』(新潮社) 三月 遍照寺さん(文学界) 将棋観戦記(産経新聞か) 私の手控帖(文芸) 一〇月) 四月 子熊の夜遊び(新潮) 五月 伊之助の短文(文芸春秋) 『戦後十年名作選集』(光文社) 『白毛』収録) 六月 開墾村と作の陳述(別冊文芸春秋) のち改題「開墾村の与作」) 弘光寺さん(芸術新潮) 『在所言葉』(修道社) 『通洋隊長・本日休診』(新潮文庫) 七月 手洗鉢(文芸) 曾良の随行記(学燈) 広島県内早廻り記―広島風土記―(小説新潮) 八月 再疎開―昭和20年の自画像―(新潮) 九月 釣場(オール読物) 澁井さんの釣(文学界) 一〇月 下足番(新潮) 仲人の経験(婦人画報) あの頃の太宰君(太宰治全集第1巻月報1)筑摩書房) 筑摩書房版の太宰全集(太宰治全集予告パンフレット(一)―筑摩書房) 十一月 「ダス・ゲマイネ」の頃(太宰治全集第2巻月報2)筑摩書房) 十二月 鳥條の女将(別冊文芸春秋) 河盛好蔵の履歴(新潮) 御坂畔にゐた頃のこと(太宰治全集第3巻月報3)筑摩書房) 『白鳥の歌』(筑摩書房) 『ドリトル先生月へ行く』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 月未詳 喜乃といふ女(サンデー 毎日 新緑特別号)

昭和三十一年(一九五六) 五八歳

一月 鉢の番号(世界) 修善寺桂川(新潮) いろいろ草紙(群像) 祝賀会の夜(一月執筆) 『懶惰の歌留多』について(太宰治全集第4巻月報4)筑摩書房) 『源太が手紙』(筑摩書房) 『山椒魚・通洋隊長』(岩波文庫) 二月 来訪者(オール読物) 酒(文芸春秋) 岡穂を送る(文芸) 詩) 『井伏鱒二・豊島与志雄集』(人少年少女のための現代日本文学全集18)東西文明社) 『ジョン万次郎漂流記』(角川文庫) 三月 入函(新潮) 戦争初期の頃(太宰治全集第6巻月報6)筑摩書房) 四月 易学雑誌から(小説新潮) 甲府にゐた頃(太宰治全集第7巻月報7)筑摩書房) 『源民宇三郎』(講談社) 五月 報告的雑記(太宰治全集第8巻月報8)筑摩書房) 『さざなみ軍記』(人名作歴史文学選集31)彰考書院) 六月 水車は廻る(オール小説) 篠山街道―城といふものは廢墟になってから美しく見える(別冊文芸春秋) 太宰君の仕事部屋(太宰治全集第9巻月報9)筑摩書房) 七月 蝙蝠座(小説春秋) 使い古しの歯ブラシ(オール読物) 還暦の鯉(暮しの手帖) 八月 「が」「そして」「しかし」(文学界) ある草案(



七月二十三日記(新潮) 『井伏鱒二集』(八少年少女日本文学名作集23▽東西  
五月社) 『ドリトル先生航海記』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文  
庫) 『ふるさとを訪ねて 広島』(八少年少女文学風土記9▽泰光堂 編著  
一〇月 御高評(新潮) 一月 金谷完治―九月十九日―(心) 一二  
月 『駅前旅館』(新潮文庫) 『保元物語・平治物語・平家物語』(八日本  
文学全集7▽井伏鱒二・中山義秀訳 河出書房新社) 月未詳 『あやめ―日  
本短編集―』(A・ゴステインスカ訳 志賀直哉・中島敦・丹羽文雄・芥川龍  
之介・太宰治・井伏鱒二・林芙美子の一〇編のポーランド語訳)

昭和三十六年(一九六一) 六三歳

一月 南島風土記(新潮) 二月 『昨日の会』(新潮社) 三月 『厄よけ詩  
集』限定版(国文社) 六月 『引越やつれ』(角川小説新書) 七月 野犬(新  
潮) 『珍品堂主人』(中央公論社) 八月 武州鉢形城(新潮) 一三七年七  
月) 『片棒かつぎ』(河出書房) 九月 無心状(小説新潮) ナメシ革(心  
) 『取材旅行』(新潮社) 『ドリトル先生アフリカゆき』(八ドリトル先  
生物語全集1▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店) 『ドリトル先生と秘  
密の湖』(八ドリトル先生物語全集10▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店)  
『ロビンソン漂流記』(八世界名作童話全集▽デフォー・井伏鱒二訳 鶴書房  
一〇月 『ドリトル先生航海記』(八ドリトル先生物語全集2▽ロフティ  
ング・井伏鱒二訳 岩波書店) 十一月 現代の埴輪づくり(芸術新潮) 『井  
伏鱒二集』(八現代日本文学全集70▽筑摩書房) 『ドリトル先生の動物園』(八  
ドリトル先生物語全集5▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店) 十二月  
月の絵(別冊文芸春秋) 『ドリトル先生と緑のカナリヤ』(八ドリトル先生  
物語全集11▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店)

昭和三十七年(一九六二) 六四歳

一月 大岳さん(西日本新聞 一日) 十月の日記(風景) 平野零児のこと  
(小説新潮) 『ドリトル先生の郵便局』(八ドリトル先生物語全集3▽ロフ  
ティング・井伏鱒二訳 岩波書店) 二月 失念事(文芸春秋) 『井伏鱒二  
集』(八中学生文学全集24▽新紀元社) 『井伏鱒二・永井龍男集』(八日本  
現代文学全集75▽講談社) 『ドリトル先生のサーカス』(八ドリトル先生物  
語全集4▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店) 『ドリトル先生航海記・オズ

のまほう使い・シートン動物記』(八少年少女新世界文学全集16・アメリカ篇  
6▽ロフティング・井伏鱒二訳、バーム・松村達雄訳、シートン・竜口直太郎  
訳 講談社) 三月 『ドリトル先生のキャラバン』(八ドリトル先生物語全集  
6▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店) 四月 『ドリトル先生と月から  
の使い』(八ドリトル先生物語全集7▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店  
) 五月 『ドリトル先生月へゆく』(八ドリトル先生物語全集8▽ロフティン  
グ・井伏鱒二 岩波書店) 六月 『ドリトル先生月から帰る』(八ドリトル  
先生物語全集9▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店) 『閑』(八生活の  
隨筆8▽筑摩書房 共同執筆) 七月 余談(―定本太宰治全集5―筑摩書房  
) 『井伏鱒二』(八昭和文学全集16▽角川書店) 『ドリトル先生の楽しい  
家』(八ドリトル先生物語全集12▽ロフティング・井伏鱒二訳 岩波書店)  
八月 岡―埴輪の旅―(小説中央公論) 英語について(文芸朝日) 一〇月  
表札(小説新潮) 故篠原陸軍中尉―「寄生木」のダイジェスト篇―(新潮)  
十一月 石臼の話(毎日新聞八夕刊▽三日) 『溪谷』(有紀書房 共同執  
筆)

昭和三十八年(一九六三) 六五歳

一月 子熊のクロ(新潮) 正宗さんのこと(文芸) 二月 誕生日(オール  
読物) 三月 『武州鉢形城』(新潮社) 四月 戦死・戦病死(小説中央公  
論) 五月 芦安一等兵(中央公論) 郷土部隊(オール読物) 亡友中村地  
平(新潮) ふるさとの音(文芸朝日) つかぬことを(小説新潮) 一六月  
六月 南方ぼけの頃(新潮) 七月 はじめての本『夜ふけと梅の花』(週刊  
読書人 一八日) 『珍品堂主人』(角川文庫) 八月 片割草紙(新潮) 佐  
原の釣(水底) 一〇月 時計もくれますか(オール読物) 十一月 コタツ  
花(文芸朝日) 『平家物語』(八国民の文学10▽井伏鱒二・中山義秀共訳  
河出書房新社) 十二月 中込君の釣(小説中央公論) 『無心状』(新潮社  
)

昭和三十九年(一九六四) 六七歳

一月 カラス(小説新潮) 横丁の話(新潮) 二月 稽古場へ行く道(オー  
ル読物) はじめての自装本『さざなみ軍記』(読売新聞 九日) 三月 日  
記(風景) 四月 東油木村の藤八(オール読物) ある交友(小説新潮)

イタドリの絵皿（週刊読書人 六日） 亡友の諸譚（日本経済新聞 一九日）

五月 茅ノ島所見（新潮） 六月 サクランボ（小説新潮） 笠雲（別冊文芸春秋） 五月十六日記（本の手帖） 大山名人の生誕（山陽新聞 一二日）

『釣師・釣場』（新潮文庫） 七月 阿部真之助さんのこと（東京新聞ハタ刊V 一三日） 回想佐藤春夫一座談会 井伏鱒二・権一雄・中谷孝雄・安岡章太郎・山本健吉（文芸） 九月 先輩（小説新潮） 『井伏鱒二全集』（全一二巻 筑摩書房 一四〇年八月） 『本日休診』（現代日本文学英訳選集3 V サイデンステッカー訳 原書房） 『七つの街道』（新潮文庫） 一〇月

岡不可止遺文集『風韻無限』（無題） 収録 一二月 『備前・やきもの、その美その思い出備前町観光記一金重陶陽 葛西宗誠写真』（八日本のやきもの5 V 淡交新社） 『井伏鱒二名作集』（八少年少女現代日本文学全集36 V 偕成社） 一二月 新日本各所案内35―伊豆松崎（週刊朝日 五日）

昭和四〇年（一九六五） 六七歳

一月 姪の結婚（新潮 八月号より改題「黒い雨」 一四一年九月） くるみ

が丘（オール読物 一二月） 柴芽谷部落（展望） 築山（国立博物館ニュース 一日） 弘光寺の杉戸―すまひ訪問―（木） 週間日記（週刊新潮 二五日） 二月 野村万蔵邸の能舞台―すまひ訪問―（木） 三月 廉塾―すまひ訪問―（木） 四月 壺井邸の籐の間―すまひ訪問―（木） 五月 『ジョン万次郎漂流記』（ハジュニア版日本名作選16 V 偕成社） 六月 モグラの庭（心） 七月 上脇進の口述（小説新潮） 九月 河盛好蔵連載対談―河盛好蔵・井伏鱒二（小説現代） 一〇月 『井伏鱒二集』（現代の文学6 V 河出書房新社） 一二月 『堀辰雄全集10巻』（角川書店 「風貌姿勢・堀辰雄」「一人一評」収録） 『駅前旅館』（角川文庫）

昭和四一年（一九六六） 六八歳

一月 富士に魅せられて―座談会 井伏鱒二・岡田紅陽・武田泰淳・林武（新潮） 三月 『生きている名作のひとびと』（読売新聞社 「泰さんと珍品堂」―談話―収録） 『井伏鱒二集』（現代文学大系43 V 筑摩書房） 『くるみが丘』（文芸春秋社） 八月 愛誦詩集のこと（新潮） 一〇月 『黒い雨』（新潮社） 『場面の効果』（大和書房） 一二月 『井伏鱒二』（八日本の

文学53 V 中央公論社）

昭和四二年（一九六七） 六九歳

一月 両家の争ひ（小説新潮） 御用控帳（文芸春秋） 鷗外の手紙（新潮） 出土品（朝日新聞 三日） 正宗さん（東京新聞ハタ刊V 四日） 『くるみが丘』（八少年少女日本の文学11 V あかね書房） 二月 『井伏鱒二全集』普及版（全一二巻 筑摩書房 一四三年一月） 五月 『井伏鱒二集』（八日本文学全集41 V 集英社） 六月 うばめ極（別冊小説新潮） あいさつ（雲母）

七月 友達座連中（週刊新潮 一二月） 八月 四十年前のこと（久保田万太郎全集第3巻月報―中央公論社） 九月 『井伏鱒二』（八日本文学全集22 V 新潮社） 一〇月 日記『風景 のち改題「七月の日記」』『風貌・姿勢』（講談社） 一二月 『平家物語』（井伏鱒二、中山義秀共訳 河出書房） 『井伏鱒二集』（八日本文学全集17 V 河出書房） 『井伏鱒二』（現代日本文学館29 V 文芸春秋社）

昭和四三年（一九六八） 七〇歳

一月 大きい木（新潮） 飯田龍太の釣（俳句） 楽しき哉雑談―座談会 井伏鱒二・河盛好蔵・永井龍男（中央公論） 二月 文芸一夕話―座談会 井伏鱒二・井上靖・山本健吉・河盛好蔵（心） 三月 『井伏鱒二・太宰治・木山捷平』（八日本短編文学全集36 V 筑摩書房） 五月 『全集・現代文学の発見』（学芸書林 「かきつばた」5巻、「白毛」6巻、「吹越の城」11巻、「さざなみ軍記」21巻収録 一八月） 六月 古い手紙「太宰治展」によせて（毎日新聞ハタ刊V 一七日） 一〇月 『さざなみ軍記』（新学社文庫） 一

一月 宇野さんの魚釣（一宇野浩二全集第4巻月報―中央公論社） 一二月 シンガポールで見えた藤田嗣治（芸術新潮） 思い出すこと（心） 月未詳 『三六号』（野間宏「三六号」、井伏鱒二「バス」、他七編ロシア語訳 東方文庫 献出版所）

昭和四四年（一九六九） 七二歳

一月 問はず語り（小説新潮） 富ノ沢麟太郎（新潮） 舞台再訪・さざなみ軍記（朝日新聞 二七日） 二月 風貌・姿勢（産経新聞ハタ刊V 一三回 一日―五月六日） 三月 御金蔵破り（中央公論） 四月 編纂のことば（

河上徹太郎全集内容見本―勁草書房) 風月翁(―森下雨村著『猿猴川』序文  
―) 『井伏鱒二』(ハカラー版日本文学全集23V河出書房新社) 五月 私  
の好きな詩一つ(ちくま) 六月 自然と文学―対談 井伏鱒二・深沢七郎  
―(文芸) 『黒い雨』(ジョン・ベスター英訳 講談社インターナショナル  
―) 『ジョン万次郎漂流記』(ハホームスクール版日本文学34V惜成社)  
九月 手控帳より(海 四五年一月分載) 一〇月 器用・無器用(―河上  
徹太郎全集第3巻月報―勁草書房) 私の体験記(サンデー毎日 二六日)  
『井伏鱒二』(ハ日本文学全集15V新潮社) 十一月 戦後と漂流―対談 井  
伏鱒二・五木寛之(文芸) 十二月 『山椒魚 通洋隊長』(岩波文庫)

昭和四五年(一九七〇) 七二歳

一月 釣人(新潮) 羽織(産経新聞夕刊V 一〇日) 『井伏鱒二集』(ハ  
新潮日本文学17V新潮社) 二月 戦争中の徴員・平野直美(文学界) 芦田  
川・幻の町(日本経済新聞 二六日) のち改題「川底の町」(失われゆく釣  
人たちの自然―対談 井伏鱒二・楡山義夫―(潮) 野鳥の話―対談 井伏鱒  
二・中西悟堂―(赤旗 一五日―二七日) 『定本 佗助』(青娥書房) 四月  
釣宿(新潮 一六月) 鳥の声(野鳥) 『井伏鱒二』(ハ日本文学全集24V  
河出書房新社) 六月 田中さんのこと(すばる) 『釣人』(新潮社) 『  
黒い雨』(新潮文庫) 『井伏鱒二・太宰治集』(ハあかつき名作館日本文学  
シリーズ10V暁教育図書) 八月 釣る話―対談 井伏鱒二・開高健―(ちくま  
―) 『黒い雨』執筆前後―被爆25周年にあたって(赤旗日曜版 談話) 『井  
伏鱒二・上林曉集』(ハ現代日本文学大系65V筑摩書房) 九月 昭和十年代  
を聞く―井伏鱒二(文学的立場 インタビュー) 『井伏鱒二集』(ハ現代  
日本の文学21V学習研究社) 十一月 四十雀(新潮) 私の履歴書(日本経  
済新聞 一日―二二日) のち改題「半生記―私の履歴書」 十二月 幼  
少年時代にどんな本を読んだか(図書 アンケート)

昭和四六年(一九七二) 七三歳

一月 木山捷平詩碑(文学界) 二月 窓の外の自動車(産経新聞夕刊V 一  
九日) 『通洋隊長』(ジョン・ベスター英訳 講談社インターナショナル)  
三月 街のなかの森(新潮) のち改題「早稲田の森」 五月 メンコ―少  
年の縁起―(新評のち改題「メンコ」) 看板(オール読物) 『定本 屋

根の上のサワン』(牧羊社) 七月 中込君の雀(新潮) 『山椒魚・本日休  
診』(講談社文庫) 『井伏鱒二』(ハ日本文学全集15V新潮社) 八月 筆  
蹟(オール読物) 『雁』の三つの場面(―ハ新潮日本文学1V森鷗外集月報―  
―) 九月 『早稲田の森』(新潮社) 十一月 うなぎ(新潮) 『くるみが  
丘』(ハ少年少女日本の文学11Vあかね書房) 十二月 唐木先生(オール読  
物) 『戦争文学全集4』(毎日新聞社 『通洋隊長』収録) 月未詳『黒い  
雨』(M・メラノヴィッチ ポーランド語訳)

昭和四七年(一九七二) 七四歳

一月 文学・閑話休題―対談 井伏鱒二・永井龍男(文芸) 二月 峠の茶  
店(文学界) 青柳瑞穂と骨董(文芸春秋) 『戦争文学全集2』(毎日新聞  
社 『花の町』収録) 三月 一握の糶(オール読物) 菅ての亡命客(新潮  
―) 四月 馬(小説新潮) 五月 交遊抄(日本経済新聞 四日) 『人と人  
影』(ハ現代日本のエッセイV毎日新聞社) 七月 約束(オール読物) 一  
〇月 船津村の窯址(新潮) 十二月 病気のいろいろ(別冊文芸春秋)

昭和四八年(一九七三) 七五歳

一月 流星騒ぎ―その前後の私ごと(群像) 炬燵(はるぶ新聞 五日) 二  
月のムクの木(オール読物) 三月 私のうちの雑器と三家庭の雑器(太陽  
のち改題「雑器」) 岩崎栄―追悼(毎日新聞夕刊V 二六日) 『井  
伏鱒二集』(ハ日本文学全集41V集英社) 四月 ハゼ類の魚(オール読物)  
六月 天井裏の隠匿物(新潮) 庄野君と古備前―庄野潤三全集第1巻月報  
―講談社) 『児を盗む話』の周辺事(―志賀直哉全集第5巻月報―岩波書店  
―) 梅雨晴れ横町閑談―対談 井伏鱒二・永井龍男―(週刊小説 二九日) 八  
月 石垣(オール読物) 詩 夕すずみ縁(台話) 対談 井伏鱒二・河盛好蔵―(潮  
―) 九月 「雨月物語」明治翻刻本―佐藤古夢のこと―(新潮) あら井の願  
法寺(俳句とエッセイ) 『井伏鱒二』(ハ日本の文学53V中央公論社) 一〇  
月 九月十二日記(文芸展望) 十一月 太宰治と文治さん(日本経済新聞  
六日) 年譜に憑かれてゐた人(―石原八束著『枕琴帖』附録―皆美社)  
十二月 釣談義・浮世問答―対談 井伏鱒二・開高健―(別冊文芸春秋)

昭和四九年(一九七四) 七六歳

一月 質流れの島(新潮) 虹のいろいろ(雲母) 川で会った人たち(オール読物) 文学青年喪れ「あの日の日」の周辺事―対談 井伏鱒二・尾崎一雄―(群像) 開高夫人からの問書(―開高健全作品小説4月報―新潮社)  
二月 入道ひ(文芸春秋) 三月 おしまいのページで(オール読物) 『日本のおきもの』(読売新聞社) 「姫谷厘蓋」収録 『井伏鱒二全集』増補版(筑摩書房) 一五〇年七月) 四月 『文学一九七四』(講談社) 「天井裏の隠匿物」収録 七月 惜しい人(七月執筆) 『小黒坂の猪』(筑摩書房) 八月 蟻地獄(オール読物) 一〇月 スガレ追ひ(文芸展望) 一五〇年一月) 微用員の頃のこと(―北原武夫全集第1巻月報―講談社) 一二月 『保元物語・平治物語・義経記』(井伏鱒二、高木卓共訳)日本の古典14V河出書房新社) 月未詳 後味のよさ(―秋聲全集―内容見本―臨川書店) 四九年秋) 『天井裏の隠匿物』特別限定版(槐書房)

昭和五〇年(一九七五年) 七七歳

一月 壁さんのこと(新潮) 湖水の鮎(文芸春秋) 誤診(小説新潮) 詩地理・歴史・文学―対談 井伏鱒二・河上徹太郎―(文芸) 食べもの本来の味覚を語る―対談―井伏鱒二・深沢七郎―(週刊小説) 二月 牧野信一の文学碑(二月執筆) 四月 『文学一九七五』(講談社) 「質流れの島」収録 六月 備前牛窓(新潮) 一〇月 ずいひつ(小説新潮) 『山椒魚』(ハジュニア版日本の文学48V集英社) 一二月 おしまいのページで(オール読物)

昭和五一年(一九七六) 七八歳

一月 新倉畑貫(海) 一五二年一月) 問合はせの手紙二通(新潮) 炬燵の話(毎日新聞夕刊V) 六日) 『屋根の上のサワン』(ハジュニア版日本の文学16V金の星社) 二月 句集原稿のこと(俳句) 現代文学とことば―2―(言語生活 インタビュー) 五月 『井伏鱒二集』(ハ現代文学大系44V筑摩書房) 六月 『井伏鱒二の自選作品』(ハ現代文学4V二見書房) 七月 軍歌「戦友」(新潮) 月未詳 『山椒魚』限定版(成瀬書房)

昭和五二年(一九七七) 七九歳

一月 盤無し将棋(東京新聞夕刊V) 四日) 三月 『スガレ追ひ』(筑摩

書房) 四月 『文学一九七七』(講談社) 「軍歌「戦友」」収録) 五月

冬(海) 詩) 七月 瀬戸内海で釣りを楽しんだ―対談 井伏鱒二・永井龍男―(文芸春秋テラックス) 『軍歌「戦友」』(集英社文庫) 『珍品堂主人』(中公文庫) 『厄除け詩集』定本版(筑摩書房) 八月 三好達治の河童の暖簾(波) 九月 微用中のこと(海) 一五五年一月) 戦争と人と文学―座談会 井伏鱒二・中島健蔵・巖谷大四―(太陽)

昭和五三年(一九七八) 八〇歳

一月 野生の鴨―兼行寺の池(1)―(新潮) 二月 母屋の法事―兼行寺の池(2)―(新潮) 三月 校歌と踊―兼行寺の池(3)―(新潮) 四月 兼行寺の池(新潮) 五月 統兼行寺の池(新潮) 七月 『ドリトル先生アフリカゆき』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 九月 『ドリトル先生航海記』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 一二月 無常の風(潮) 『ドリトル先生のサーカス』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『ドリトル先生の郵便局』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『井伏鱒二自選集』(集英社)

昭和五四年(一九七九) 八一歳

一月 『ドリトル先生航海記』(ロフティング・井伏鱒二訳 講談社文庫) 二月 十一「屋の若旦那(オール読物) HYO-TAN(新潮) 『ドリトル先生の動物園』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 七月 『ドリトル先生のキャラバン』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 九月 『ドリトル先生と月からの使い』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『ドリトル先生月へゆく』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『ドリトル先生月から帰る』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 一〇月 『ドリトル先生と緑のカナリヤ』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『ドリトル先生の楽しい家』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『ドリトル先生と秘密の湖 上』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 『ドリトル先生と秘密の湖 下』(ロフティング・井伏鱒二訳 岩波少年文庫) 一二月 海揚り(新潮)

昭和五五年(一九八〇) 八二歳

二月 晩春の旅(新潮) 四月 『定本さざなみ軍記』(作品社) 九月 御隠居(オール読物) 一〇月 『現代日本ユーモア文学』(立風書房) 「白毛」収録 十一月 上林暁を悼む(すばる) 「作品」のころ(作品) 一月 追悼河上徹太郎終焉の会(新潮)

### 補遺

八補遺について

初校段階で、本編「井伏鱒二著作年表」に少なからず遺漏のあることに気付いた。完全な著作年表完成の日のために、ここに補遺を掲げる。お気付きの点があれば、些細なことでも御教示願えれば幸いである。

1 掲載の体裁は本編に準じる。

2 ※印を付したものは、すでに本編において掲出されているが、副題・改題などの事項を補ったものである。

3 原誌紙に当たることのできなかつたものうち、既成発表年譜等の記述に疑念が存する場合は、?印を付した。

4 補遺については、本編「まえがき」に掲げた方々のほか、大越嘉七、紅野敏郎、東郷克美、松本武夫氏の既発表調査によるところが大きい。

なお、調査作成には前田貞昭があたった。最後に、調査結果を利用していただいた方々に感謝申し上げます。

大正一三年

一月 レギーネを愛す(文学界 詩)

大正一四年

三月 『文芸年鑑』(二松堂 「大正十三年の文壇に対する所感」収録)

大正一五年

一月 たま虫を見る(文学界 のち「三田文学」に再録) 四月 ※言葉(その一) 江戸言葉(桂月) 七月 ※言葉(その二) 隠岐島の言葉(桂月)

八月 岬の風景(鴛の巣)

昭和三年

一月 幻のささやき(少女画報) 二月 鯉(三田文学 再録) 五月 ※たま虫を見る(三田文学 再録) 六月 新人倶楽部合評会——『文芸都市』其他

に就いて——座談会 蔵原伸二郎・井伏鱒二・浅見淵・飯島正・前山鉦吉・崎山歎逸・今日出海・近藤正夫・阿部知二・舟橋聖一・崎山正毅・古沢安二郎・徳田戯二(八月) 旅行案内(三田文学) 一〇月 薬局室挿話(細胞文芸) ※粗吟断章(三田文学 詩 のち「かなめの生垣」と改題) 十一月 ※紙風のうた(三田文学 詩 のち改作して「紙風」と改題) 十二月 落合の河童(旅と伝説)

昭和四年

一月 ※甲州街道ある記(文芸都市 古沢安二郎との合作) 心座・新劇協会——合評会——座談会 淀野・古沢・飯島・崎山・井伏・北園・中谷・小田・蔵原・舟橋・今・崎山・阿部——(文芸都市) 文芸都市批判——座談会 崎山正毅・阿部知二・井伏鱒二・舟橋聖一——(文芸都市) 二月 失礼な挿話(三田文学) 五月 文芸都市合評会・昭和四年四月二日於紀伊国屋楼上——座談会 久野豊彦・雅川澗・坪用談治・舟橋聖一・龍膽寺雄・古沢安二郎・中村正常・飯島正・井伏鱒二——(文芸都市) 七月 ※六月号創作評——文芸都市合評会・紀伊国屋楼上、一九二九・六・三——座談会 中本たか子・井伏鱒二・古沢安二郎・阿部知二・今日出海・雅川澗・舟橋聖一・田辺茂一——(文芸都市) 八月 ※(巻頭言) なつかしき現実(文芸都市) ※炭鉱地帯病院——その訪問記——(文芸都市 のち副題を削る) 十一月 海岸と女(時事新報 二三日) 十二月 ユマ吉ベソコのクリスマス(婦人サロン 中村正常との合作)

昭和五年

一月 朝の散歩と平野屋(時事新報 三日) うぐひす(報知新聞 一六日) 金解禁と財布(都新聞 一五日) ユマ吉ベソコのお正月(婦人サロン 中村正常との合作) ハワイ行き(三田文学) 二月 ユマ吉ベソコの生活改善(婦人サロン 中村正常との合作) 三月 講演・音楽・演劇(三田文学) ユマ吉ベソコと友達との結婚(婦人サロン 中村正常との合作) 自分を見る——尖端人は斯くいふ——(読売新聞 三〇日) 四月 綱網(三田文学) さ、やかにる悲哀(婦人サロン) 五月 『モダンTOKIO舞曲』(春陽堂) 『或る交遊の素描』収録 六月 洪水挿話(都新聞 一七日) 一九日 『芸術派ヴァラエティー』(赤炉閣書房 「消息」収録) 七月 晩春(文芸春秋臨時増刊) をんな(報知新聞 二六日) 鯛の巡礼(週刊朝日) 早魃地帯——夏・人・想・行動——(読売新聞 二七日) 八月 隣人の作品(三田文学)

九月 先生の広告隊(中央公論)

昭和六年

七月 ※森鷗外氏に詫びる件(東京朝日新聞 一五日)一六日 のち「悪戯」と改題) 九月 文学・講義・私・友人・幼な児(文学——岩波講座『日本文学』付録——) 月末評 夜ふけの客人(報知新聞八夕刊V?)

昭和七年

二月 菅原高原への御案内記(古東多万) 鳩時計(報知新聞) 四月 荒廢の風景(都新聞) 七月 をんな(あらくれ) 八月 日本漂流——小説のノート——(作品) のち「日本漂流」と改題) 客人(新潮) 一〇月 ※純文学の危機に就いて語る——座談会 杉山平助・河上徹太郎・伊藤整・雅川泥・川端康成・小林秀雄・吉行エイスケ・井伏鱒二・中村武羅夫——(新潮)

昭和八年

二月 書画骨董の災難(東京日日新聞 大阪毎日新聞) 三月 父親(セルパシ) 六月 ※釣鐘の音に関する研究(あらくれ) のち「釣鐘の音」と改題) 七月 ※青葉の下のベンチで・茶話——マリについて——(新潮) のち「マリといふ犬」と改題) 『新作三十三人集』(日本評論社) 『経緯』収録) 九月 経緯(経済往来)?

昭和九年

三月 旅行記(東京日日新聞) 五月 的場カクコ(若草) 一二月 ユキコ(文芸春秋) 六月 ※下田港の黒船祭(改造) のち「下田行」と改題) 『日本現代文章講座 4 構成編』(厚生閣) 『記述的表現』の項) 九月 旅行記(報知新聞) 一二月)?

昭和一〇年

一月 文学の積極性——座談会 尾崎士郎・橋崎勲・徳田一穂・阿部知二・井伏鱒二・榊山潤・小寺菊子・室生犀星・徳田秋声・中村武羅夫・舟橋聖一・豊田三郎・田辺茂一・小城美知・今井邦子・岡田三郎——(あらくれ) 二月 ※私の文学的生活(新潮) のち「文学的自叙伝」と改題?) 三月 ※酒の害(文芸) のち「はせ川」と改題) 六月 金山踊(東京日日新聞)

昭和一一年

一月 文章・風格(月刊文章) 二月 露地と人(若草) 下手物趣味(東京

日日新聞) 三月 ※旅さきの食べものの件(月刊文章) のち「旅さきの食べもの」と改題) 早春感傷記(三田文学) 四月 太宰治君(文芸雑誌)

五月 脱線(改造) 『私の文壇生活を語る——一五作家』(新潮社) 『習作時代』収録) 六月 梅雨時の感想(東京日日新聞) 七月 雨の音(若草) 八月 世に出た頃(報知新聞) 一二月 創作苦心談(月刊文章)

昭和一二年

六月 黒ん坊(オール読物) 山川草木(早稲田文学) 九月 ※素情吟味(オール読物) のち「素姓吟味」と改題) 一〇月 坪田讓治(早稲田文学)

昭和一三年

四月 女中对令嬢(週刊朝日春の大衆読物号) 五月 六月 盗難事件(オール読物) 八月 ※出前持ち(かむろ) のち「出前もち」と改題) 「さざなみ軍記」の生れるまで(月刊文章) 九月 峠の茶屋(博浪沙) 一〇月 山上風景誌(オール読物) 一二月 四つの湯槽(週刊朝日) 六日~二七日 のち「かんざし」と改題) お地藏さま(現代)

昭和一四年

一月 庭づくり(ユーモア・クラブ) 三月 土佐(博浪沙) 五月 山籠り(文学界) 七月 信濃守(オール読物) 八月 近況(文学界) 一〇月 ※高千穂(新潮) のち「案内記」と改題)

昭和一五年

二月 二月の劇壇(東京日日新聞) 三月 身辺記(文学界) 『短篇 四十人集』(厚生閣) 『仏壇の話』収録) 四月 甲府通信(博浪沙) 六月 近日常記(文学界) 壇の浦合戦(大洋) 追悼(三田文学水上瀧太郎追悼号臨時増刊) 七月 面罵の物語(モダン日本) 八月 追想記(文学界) 一〇月 深更(博浪沙) 一二月 郷土大概記——わが郷土の美しさを語る——(文学界) 一二月 郷土大概記——故郷の美しさを語る——(文学界)

昭和一六年

二月 多々良紀行(博浪沙) 三月 追悼記(博浪沙中真太郎追悼号) 五月 ※風貌姿勢——小田獄夫——(四季) 一〇月 埋れてた秋成の稿本(東京日日新聞 三二日朝刊) 一二月 上田秋成のつゞけ字(東京日日新聞 一日八朝刊V)

昭和一七年  
八月 次の朝刊小説・作者の言葉（東京日日新聞 大阪毎日新聞 一三日）

昭和一八年

一月 ※昭南タイムス発刊の頃——南方文化戦士として——（サンデー毎日 一七日）  
六月 借衣（オール読物）

昭和一九年

七月 鼠ボーイ（少国民の友）

昭和二〇年

六月 里村君の絵（文芸 五・六月合併号）

昭和二二年

七月 ※高田館（新潮 「引越やつれ」の一部） 九月 ※牛込鶴巻町（展望 「引越やつれ」の一部） 一二月 ※鬼子母神裏（人間 「引越やつれ」の一部） ※菓林館（文体 「引越やつれ」の一部）

昭和二四年

四月 ※懐中電気（新小説 のち「懐中電灯」と改題）

昭和二五年

六月 ※『六年の童話』（八童話教室V実業之日本社 「プールの森」収録）  
九月 ※『くもの軽業師』（八日本童話名作選集別巻3V三十書房 「おじぞうさま」収録）

昭和二六年

四月 ※お島の語る秋帆先生（小説公園 「お島の存念書」の一部） 六月 ※カキツバタ（中央公論文芸特集 のち「かきつばた」と改題） 七月 ※岡部の陣屋（オール読物 「お島の存念書」の一部） 『時代の花束』（東方社）

昭和二七年

一〇月 ※奥の細道の一週間（別冊文芸春秋 のち「『奥の細道』の杖の跡」と改題）

昭和二八年

八月 ※堀君と将棋の香車（文芸 のち「堀辰雄と将棋の香車」と改題） 『現代作家処女作集（早稲田作家編第一集）』（潮書房） 九月 ※太宰君のこと

——彼はサブタイトルの好きな作家であった——（文学界 のち「太宰治のこと」と改題）

昭和三〇年

六月 東京散歩（世界）

昭和三二年

一月 ※私の動物誌（東京新聞夕刊V 「かもしかの寒立ち」一月七日、「熊の月の輪」一月四日、「狸と貉」一月二日、「貂といふもの」二月二日、「鼬といふもの」二月四日、「犬について」二月一日、「蝙蝠」二月一八日、「自分の飼った鳥獣」二月五日） 六月 ※『日本の文学・小学三年生』（あかね書房 「ハンダ先生」収録）

昭和三四年

一二月 ※机上風景——質問に答へて——（のち「机上風景——雑誌編輯者の質問に答へて」と改題）

昭和三五年

一月 交遊断片・青木南八（群像） 八月 ※戦国絵巻の大三島（のち「大三島」と改題）

昭和三七年

三月 報告・芥川賞直木賞（文芸春秋） 九月 半票を投じる・芥川賞・直木賞決定発表（文芸春秋）

昭和三八年

一〇月 ※時計もくれますか（オール読物 のち「時計と直木賞」と改題）  
サワンのこと（教室の窓）

昭和三九年

四月 ※亡友の諧謔（日本経済新聞 一九日 のち「尾崎士郎の諧謔」と改題）  
六月 ※大山名人の生徳（山陽新聞 一二日 のち「大山名人のこと」と改題）

昭和四一年

一月 『甲斐路』（中林出版） 七月 『定本木下夕爾句集』（牧羊社 「序」）  
一〇月 『定本木下夕爾詩集』（牧羊社 「序」）

昭和四二年

六月 『井伏鱒二集』 (八日本文学全集19∨河出書房)

昭和四三年

七月 怖くて好きな富士 (文芸春秋)

昭和四四年

一〇月 ※私の体験記 (サンデー毎日 二六日) のち「ヤマメ釣」と改題

昭和四五年

六月 ※田中さんのこと (すばる) のち「田中貞太郎先生のこと」と改題

昭和四七年

三月 『黒い雨』のこと (国語通信 インタビュー) 一二月 ※病気のいろいろ (別冊文芸春秋) のち「病気」と改題

昭和四九年

三月 ※おしまいのページで・小黒坂の猪 (オール読物) 七月 ※惜しい人 (七月執筆 一〇月、『回想の古田臬』筑摩書房に収録) のち「古田臬」と改題

昭和五〇年

一〇月 ※ずいひつ・楯のの会事務所のこと (小説新潮) 桂又三郎 (日本のやきもの) 一二月 ※おしまいのページで・開高健 (オール読物) 殆三彩亭 (蕾)

昭和五一年

一月 ※好きな詩 (俳句とエッセイ) 二月 ※角川源義句集 (俳句) 三月 『サクラの花びら』 (牧野信一の文学碑を建てる会) 「趣意書についての弁・牧野信一氏」収録) のち「牧野信一の文学碑」と改題) 一二月 「渡し舟」 (『渡し舟』序)

昭和五二年

二月 『碇伊之助作品集』 (溪水社) 「序文」収録)

昭和五五年

二月 ※晩春の旅 (新潮) 「新潮戦後珠玉選」特集のため再録)

昭和五四年

六月 『井伏鱒二』 (八新潮現代文学2∨新潮社)